

AAG Annual Meeting (アメリカ地理学会年次総会)

参加報告

2017年4月11日

広域科学専攻(広域システム科学系) 人文地理学教室

博士後期課程2年 藤井 毅彦(松原研究室)

「博士課程学生のための国際研究集会渡航助成(平成28年度第2回)」のご支援を頂きまして、2017年4月5日から9日まで、アメリカ合衆国 Boston 市の Hynes Convention Center で開催された「AAG Annual Meeting (アメリカ地理学会年次総会)」に参加しました。この会議は、American Association of Geographers (アメリカ地理学会) が毎年1回、開催する米国地理学関連では最大の学会です。また、他国からの参加も多く、International Geographical Union (IGU, 国際地理学連合) が原則として隔年で開催する国際学会である「International Geographical Congress (国際地理学会議)」と並ぶ、地理学の分野では、最も権威のある会議のひとつです。

今回、私は、Economic geographies of urban revitalisation destruction and creation (2) という経済地理学に関するセッションで、「Diffusion of Technological Knowledge in Agri-industrial Clusters: A Case Study of Japan's Wine Industry」という題で口頭発表を行いました。発表内容は、日本のワイン産業の中心である山梨県甲州市勝沼地域において、ブドウ栽培、および、ワイン醸造技術に関して、地域内で知識がどのように伝播していったかに関する調査・考察結果です。

昨年8月に参加・発表した国際地理学会議では主に英語を母国語としない研究者の集まりでしたが、今回は、基本的に英語を母国語とする研究者からなるため、会議前から各 Working Group のメーリングリストでのやりとり(研究テーマの募集、セミナーの告知、意見交換)も活発であり、意義深いものとなりました。また、セッションは、セッション主催者は候補制となっており、主催者が、事前に各研究者の発表内容の要約を読んだ上で、発表者となってほしい人に個別にコンタクトし、相互のやりとりを経て、発表者が決定されるという、自立性の高い構成となっており、セッション参加打診のメールを頂いたときには、ほっとすると同時に、研究内容がそれなりに認められた気がしてうれしかったです。

本助成により、このような貴重な経験をする機会を持って、本当にありがとうございました。



写真 会議会場入り口にあったスケジュール全体を記した看板